

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

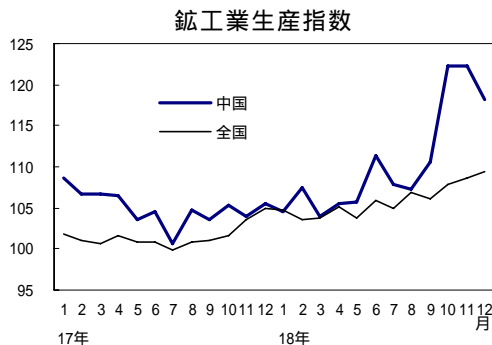
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 11 月)	今回 (平成 19 年 2 月)	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

化学は、自動車用タイヤや合成ゴムなどの樹脂原料が引き続き好調であったが、定期修理と重なったこともあり、減少している。鉄鋼は、車や造船向けが、輸出も含めて引き続き好調であったため、4四半期連続で増加している。輸送機械は、国内向け完成車は伸び悩んでいるものの、国外では北米向けを中心におう盛な需要があることから、増加している。一般機械は、海外向け蒸気タービンや半導体製造装置が好調であったため、増加している。電子部品・デバイスは、ゲーム機や携帯電話向けのアクティブ型液晶素子が好調であったため、増加した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年12月の中国は速報値。

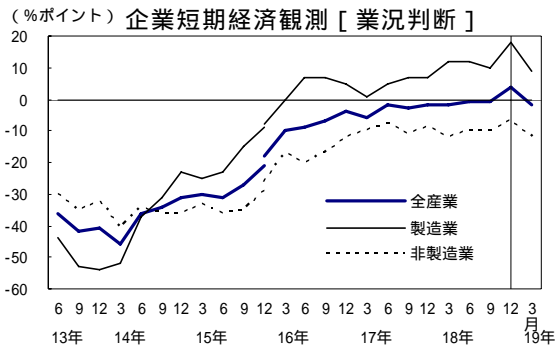
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.6	0.1	2.1	1.9	1.7
鉄鋼	12.1	2.9	4.6	4.4	5.5
輸送機械	12.0	1.6	8.9	3.3	44.9
一般機械	10.4	5.4	7.5	9.5	10.3
電子部品・デバイス	7.6	14.7	62.5	36.8	-
鉱工業	100.0	1.0	11.3	4.4	8.8

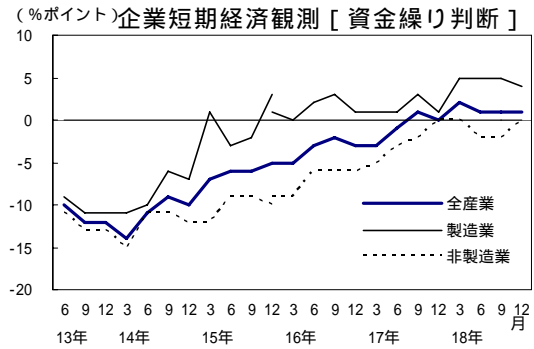
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

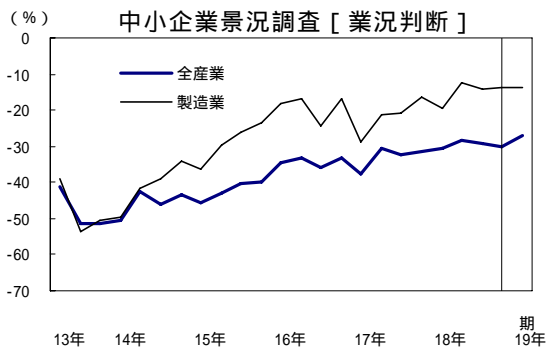
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

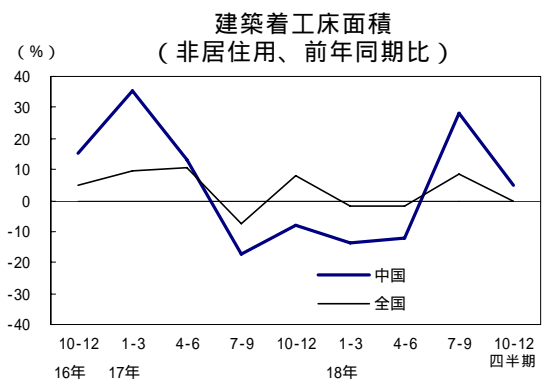
「年始の挨拶回りでも、得意先から昨年同様に仕事量が多いとの声が多く聞かれた(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	10.1	2.6(0.8)
製造業	21.1	4.1(0.1)
非製造業	6.7	15.8(1.8)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

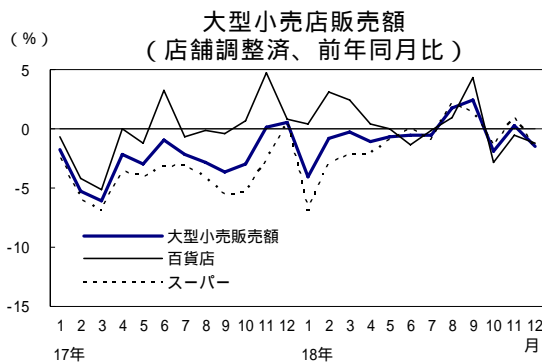
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、一部の店舗では催事効果がみられたものの、中旬から下旬にかけて気温が高めに推移し、衣料品を中心に秋冬物が振るわなかったことなどから、3か月ぶりに前年を下回った。11月は、お歳暮の早期受注やおせち料理の予約は好調だったものの、気温が高く、コートなどの単価の高い重衣料品が振るわず、前年を下回った。12月は、クリスマス限定の宝飾品の動きは良かったものの、引き続き気温が高めで鍋物商材を中心に飲食料品が振るわず、3か月連続で前年を下回った。

スーパーは、飲食料品は好調であったものの、衣料品が振るわず、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

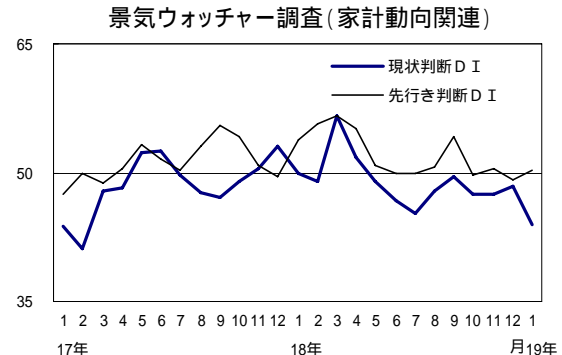
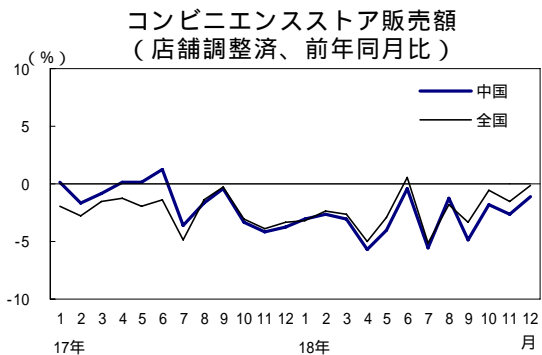
「暖冬の影響によりバーゲンとなっても相変わらずアウターの販売状況は良くない。ただし、イヤリング・ピアス等の小物アクセサリは例年に無く好調である。冬物衣料に使うお金が、ファッション小物の購買になっているのかもしれない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.8	0.8	1.0	1.1
百貨店	1.8	0.3	1.4	1.5
スーパー	4.2	1.0	0.8	0.8
コンビニ	3.0	3.4	3.9	1.8
景気ウォッチャー	51.8	49.1	47.6	47.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

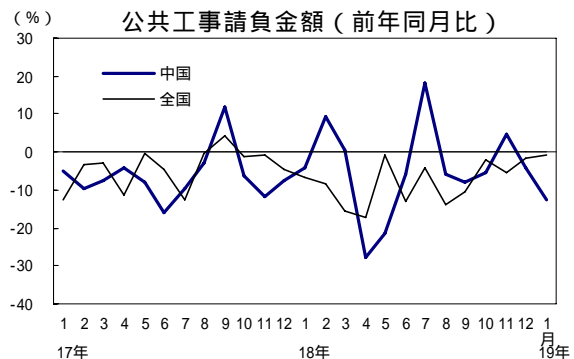
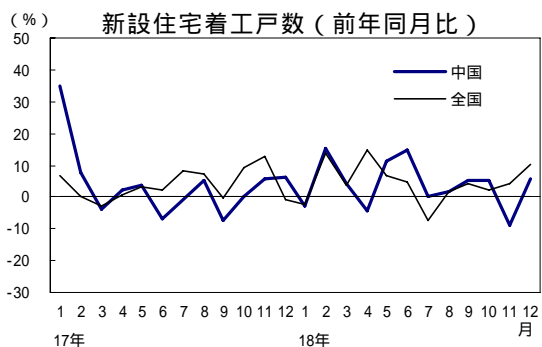
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

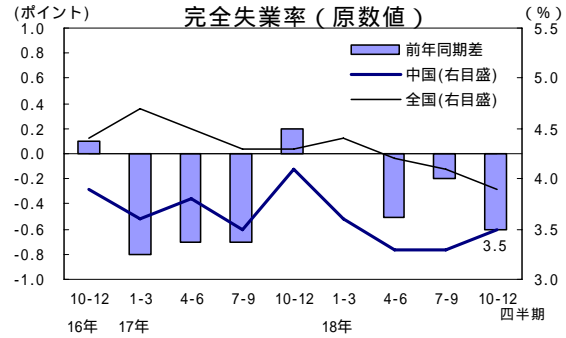
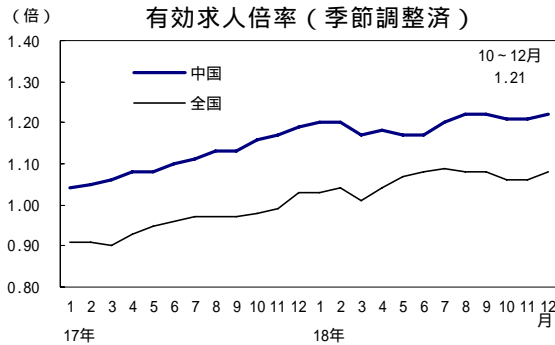


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

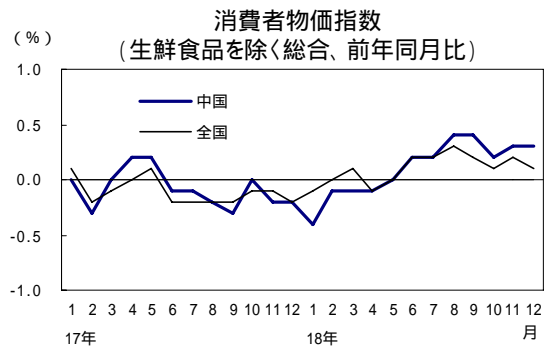
「転職で辞める際に、強く引き留めようとする企業が増えている。優秀人材の囲い込みや流出防止のため、社員とのコミュニケーションを強化している (民間職業紹介機関)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているが、負債総額が減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数	184	145	175	156	56
(前年比)	38.3	3.3	49.6	2.0	8.2
負債総額	772	498	1,208	394	199
(前年比)	84.4	31.9	185.2	37.1	65.4



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ノロウイルスの報道により、一般家庭で除菌に対する意識が高まっている。除菌商品への問い合わせが増加している (その他サービス業 [清掃具レンタル])

<先行き>

・非正規雇用者が正規雇用の求人に応募しても採用になるケースが極めて少ない。また、男性の非正規雇用者の年収が200万円を割り込んできている (民間職業紹介機関)

景気ウォッチャー調査 (合計)

